

第4章 歴史文化保存活用区域

1. 歴史文化保存活用区域設定の目的と考え方

歴史文化保存活用区域とは、不動産である文化財や有形文化財だけでなく、無形文化財も含めて特定地域に集中している場合に、文化財と一体となって価値を形成する周辺環境も含め、当該文化財（群）を核として文化的な空間を創出するための区域のことです。

悉皆調査により、小郡市内の文化遺産は至るところに分布することが明らかになりましたが、地域の中心となる文化遺産とその周辺環境を一定の区域を定めて捉えれば、より地域の実情に合致した保存活用（管理）計画を立てることができます。この区域を歴史文化保存活用区域と呼び、今後市が推進する文化遺産を活かしたまちづくりの中心に据えるべきものと言えます。

歴史文化保存活用区域の設定目的は以下の通りです。

地域に伝わる歴史文化を知り、守り繋ぎ、活用して、豊かなふるさとをつくる

この目的を達成するためには、行政と住民のみならず、そしてNPO法人を始めとする非営利団体や営利団体など、様々な立場の人々が協力して活動に取り組む必要があります。そのためには、まず地域の歴史文化の実態を知ることから始める必要があるでしょう。行政として、継続した学習や体験の場を設け、生涯学習の機会を充実させるとともに、学校教育現場との十分な連携を図ることが重要です。また、住民が地域に誇りを持つためには、地域外からの評価を得ることも有効な手段です。そのためには、積極的な情報発信も必要です。

このような取り組みの先に初めて、地域住民自らによる歴史文化の継承が可能となります。住民が主体となって方針や手段を検討し、行政がそれを支えるような、そんな社会の達成を目指します。

<区域設定の目標>

1. 歴史文化を活かしたまちづくりの指針とする
2. 歴史文化の情報を地域内外で共有する
3. 文化遺産を次世代に継承する

2. 歴史文化保存活用区域の設定方針

歴史文化保存活用区域は、以下のような要件を満たす地域に設定します。

- 文化財が集中する地域
- 核となる文化財とその周辺を一体的に保存整備することが望まれる地域
- 文化的な空間を創出するために一体的に捉えることが望まれる地域

これを前提に、小郡市の歴史文化の特徴を踏まえ、次のような地域を歴史文化保存活用区域に設定しました。

1. 一定のテーマの文化遺産が集中して残り、十分な活用を図ることが期待される区域

地域のテーマや特徴を見出すことができ、それを市内外の住民に比較的容易に伝えることができる区域。これから市が取り組む文化財行政の中心となる。

2. テーマは複数に及ぶが、地域として文化遺産群の存在が重なる区域

様々なテーマの文化遺産が重層的に存在する地域で、厚みのある保存・活用方針を設定できるほか、他地域との連携が期待できる区域。

3. 市の特徴である自然を背景に、様々な文化遺産がそれに溶け込む区域

自然や空間としての地域を重視し、そこに存在する多様な文化遺産を広い視点で位置付けることができる区域。

3. 歴史文化保存活用区域の設定

歴史文化保存活用区域設定の前提となる関連文化財群と主な構成要素、そして所在地の関係は以下のとおりです。

表 19 各関連文化財群の主な構成要素と所在地

関連文化財群	主な構成要素	所在地（校区 区）
津古古墳群と小郡の古墳文化	津古1号墳、横隈山古墳、井の浦1号墳	三国 みくにの団地・三国が丘
	花立山穴観音古墳・花立山古墳群	立石 花立山
地方郡衙の教科書 小郡官衙遺跡群	小郡官衙遺跡	大原 中央1・中央2
	上岩田遺跡、井上廃寺	立石 上岩田・井上
	媛社（七夕）神社	小郡 大崎
九州南北朝最大の合戦 大保原合戦	善風塚跡	大原 大保
	大原古戦場碑、福童の將軍藤	小郡 小郡・福童
	山隈城	立石 花立山
	西鯉坂城	味坂 下西
水とくらし	野越堤を中心とする水利施設	立石 干潟
	池内孫右衛門翁之碑、野口堤	小郡 大原
	稲吉堰	小郡 稲吉
	端間港	小郡 東福童
	ダブリュウ・川まつり	御原・味坂 各地
近世のクロスロード 小郡	旅籠油屋、南・北構口、霊鷲寺	立石 松崎
	平田家住宅・平田氏庭園、 祇園神社、日吉神社	小郡 上町・中町・下町・新町
	隼鷹神社、柳屋、早馬祭	三国 横隈
	高松家、紺屋	御原 古飯
	筑前・筑後国境石、早馬祭	立石 乙隈
櫓と小郡	平田家、伍盟銀行、内山伊吉之碑	小郡 上町・東町
	河原氏庭園	小郡 中央1
	伊吉櫓の古木	立石 松崎
小郡の食文化 鴨料理	さとう別荘	小郡 下町
	大保ゴルフ場跡	大原 大保
民間信仰 さまざまな祈りの かたち	名馬池月の塚 馬頭観音像	味坂 八坂
	日吉神社 下町恵比須像・中町恵比須像	小郡 下町
大刀洗飛行場と戦時のくらし	陸軍実弾射撃訓練場、軍用道路、 軍用防空壕	立石 干潟
	観音像と釈迦像	立石 花立
	縣境石	小郡 下町

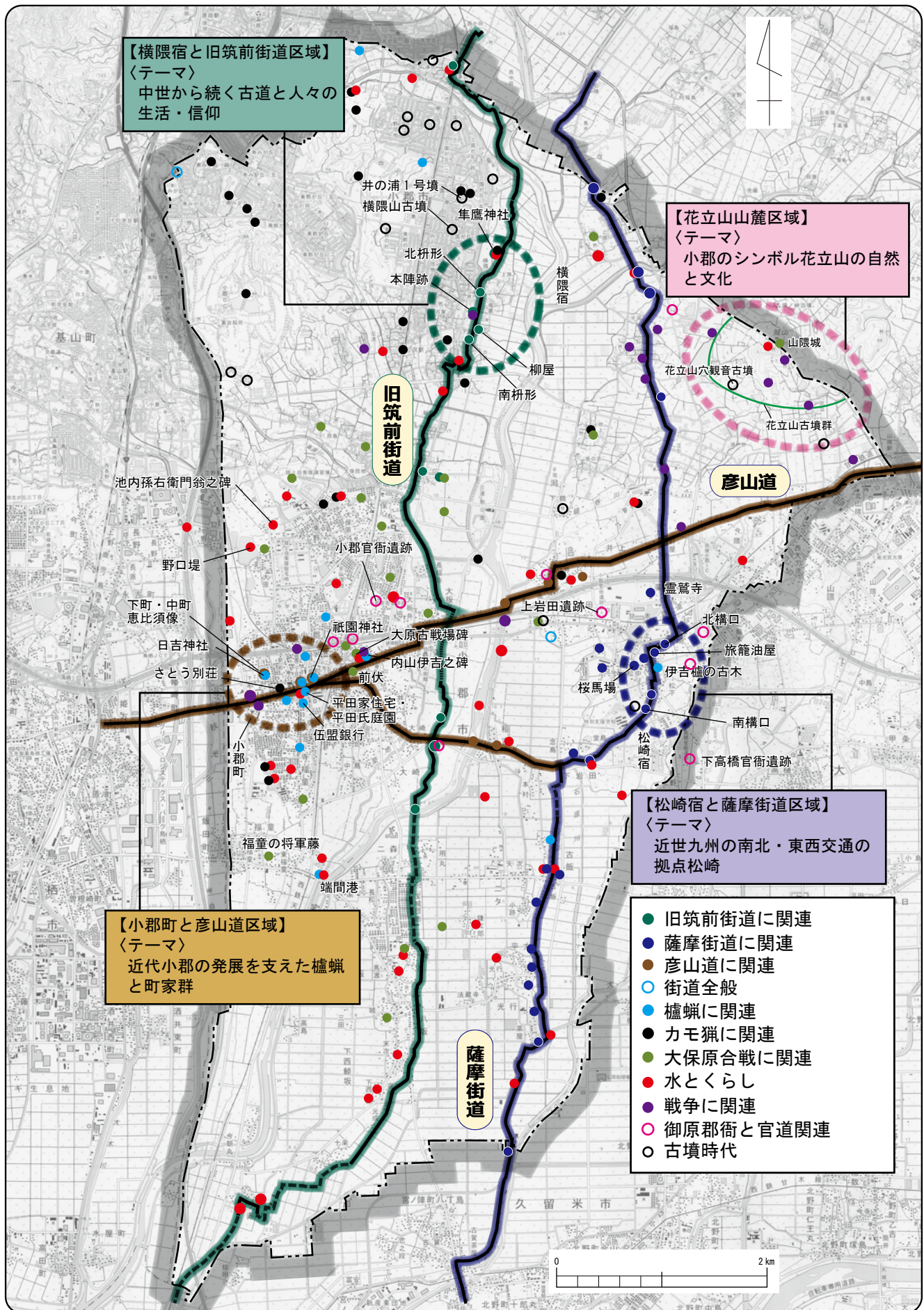
前項の要件に基づき、構成要素の所在地をグループで括ると、以下のようなまとまりが見えてきます。

- ①松崎宿と薩摩街道区域
- ②小郡町と彦山道区域
- ③横隈宿と旧筑前街道区域
- ④花立山山麓区域

これを表にまとめると以下のようになり、市内の主要構成要素のほとんどがこの4つの区域に分類できることが分かります。

表 20 関連文化財群の主要構成要素と各区域の関係

関連文化財群	区域	松崎宿と薩摩街道区域	小郡町と彦山道区域	横隈宿と旧筑前街道区域	花立山山麓区域
津古古墳群と小郡の古墳文化				津古1号墳 横隈山古墳 井の浦1号墳	花立山穴観音古墳 花立山古墳群
地方郡衙の教科書 小郡官衙遺跡群		上岩田遺跡	小郡官衙遺跡 井上庵寺	媛社（七夕）神社	
九州南北朝最大の合戦 大保原合戦			大原古戦場碑 福童の將軍藤	善風塚跡 西鯨坂城	山隈城
水とくらし		野越堤を中心とする 水利施設	池内孫右衛門翁之碑 野口堤、稲吉堰 端間港	各地のダブリュウ・ 川まつり	
近世のクロスロード 小郡		旅籠油屋、南・北構口 靈鷲寺 高松家、紺屋 筑前・筑後国境石 乙隈早馬祭	平田家住宅 平田氏庭園 祇園神社 日吉神社	隼鷹神社 柳屋 横隈早馬祭	
櫓と小郡		伊吉櫓の古木	平田家住宅 平田氏庭園 伍盟銀行 内山伊吉之碑 河原氏庭園		
小郡の食文化 鴨料理			さとう別荘	大保ゴルフ場跡	
民間信仰 さまざまな 祈りのかたち			日吉神社 下町恵比須像 中町恵比須像	名馬池月の塚 馬頭観音像	
大刀洗飛行場と戦時の くらし			縣境石		陸軍実弾射撃訓練場 軍用道路 軍用防空壕 観音像と釈迦像



【横隈宿と旧筑前街道区域】
〈テーマ〉
中世から続く古道と人々の
生活・信仰

【花立山山麓区域】
〈テーマ〉
小郡のシンボル花立山の自然
と文化

【小郡町と彦山道区域】
〈テーマ〉
近代小郡の発展を支えた榺蟻
と町家群

【松崎宿と薩摩街道区域】
〈テーマ〉
近世九州の南北・東西交通の
拠点松崎

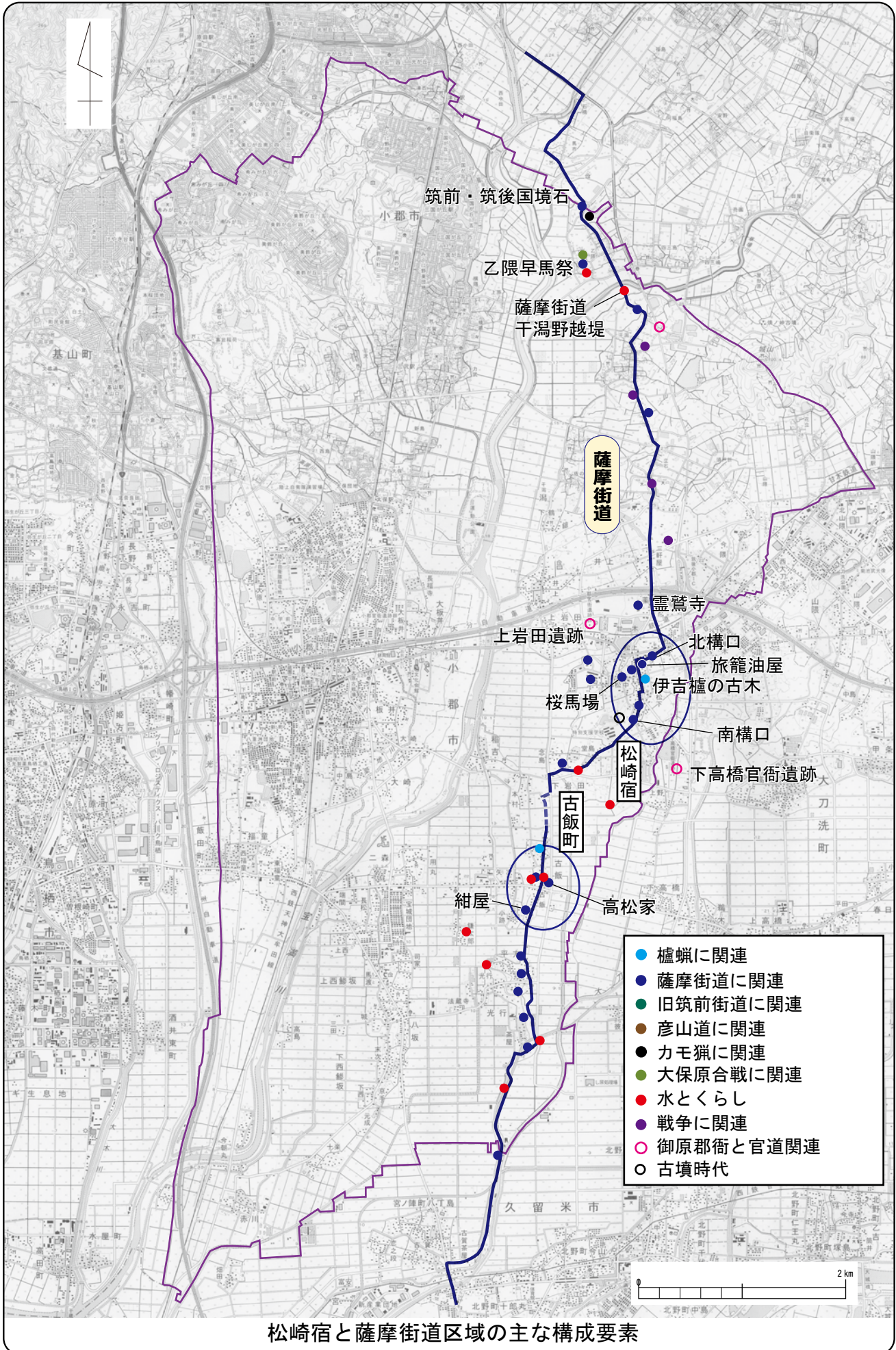
- 旧筑前街道に関連
- 薩摩街道に関連
- 彦山道に関連
- 街道全般
- 榺蟻に関連
- カモ猟に関連
- 大保原合戦に関連
- 水とくらし
- 戦争に関連
- 御原郡衙と官道関連
- 古墳時代

小郡市内の歴史文化保存活用区域

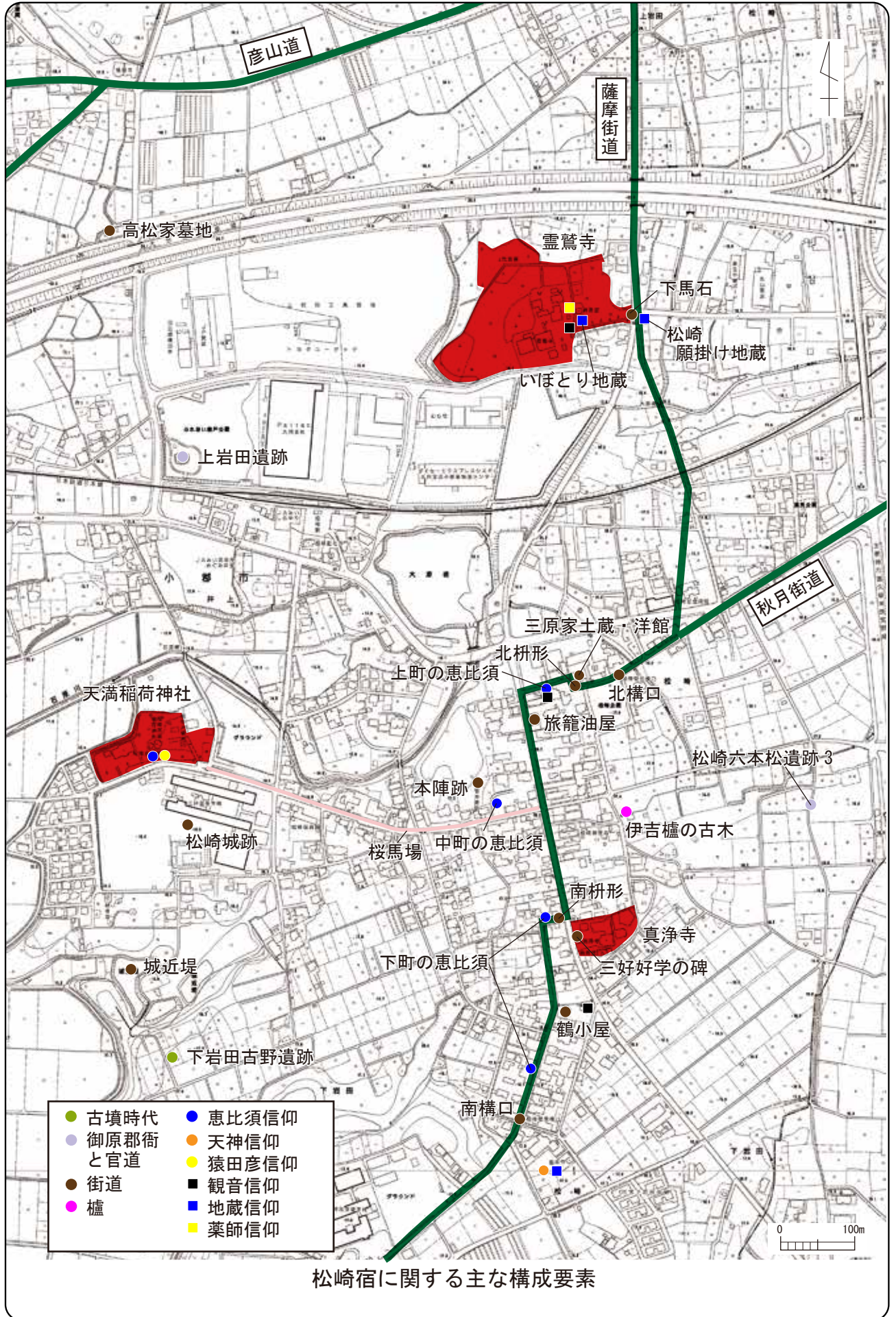
4. 歴史文化保存活用区域の概要

1) 松崎宿と薩摩街道区域

区域のテーマ	近世九州の南北・東西交通の拠点松崎
区域のタイプ	一定のテーマの文化遺産が集中して残り、十分な活用を図ることが期待される区域
関連文化財群と構成要素	<p>地方郡衙の教科書 小郡官衙遺跡群 上岩田遺跡</p> <p>水とくらし 野越堤を中心とする水利施設</p> <p>近世のクロスロード 小郡 旅籠油屋、南・北構口、霊鷲寺、高松家、紺屋、筑前・筑後国境石、乙隈早馬祭</p> <p>櫓と小郡 伊吉櫓の古木</p>
区域の概要	<p>本区域は、市の東部、宝満川左岸の低台地上に位置する。南北に走る薩摩街道沿いの範囲で、南から光行・古飯・松崎・干潟・乙隈の各地域を中心に、数多くの近世の指定文化財と未指定文化財が存在する。</p> <p>古くは7世紀代の評衡と考えられる上岩田遺跡が存在する。薩摩街道のやや西側には中世の吹上城や乙隈城があり、当時の交通路が存在することが想定できる。</p> <p>近世の松崎宿や薩摩街道沿いには、文化遺産が非常によく残されている。街道自体の残りも比較的良好である。松崎宿では、二つのNPOが旅籠油屋と旅籠鶴小屋を管理・活用しており、特に前者は解体・復原が完了し、江戸時代当時の姿を体感することができる。また、南北の構口は4基の石塁が全て残り、全国的にも貴重な事例となっている。修繕を含めた適切な管理が求められる。また、野越堤を中心とする水利施設は、江戸時代の治水と防災の考え・技術を今に伝える。</p> <p>近代以降も松崎は交通の要衝として発展し、明治から昭和初期の文化遺産も多い。このような背景もあり、古飯からは古屋佐久左衛門・高松凌雲兄弟、松崎からは郷土史家柳勇や詩人・編集者野田宇太郎が出るなど、現在も文化の薫りが高い。</p>
保存・活用の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○近世の薩摩街道及び松崎宿に関する文化遺産と周辺環境の維持に取り組むとともに、活用のための周遊コースを設定し、可能な部分からコース整備を行う。 ○旅籠油屋を管理するNPO法人小郡市の歴史を守る会との協力を強化し、日常的な事業展開を推進する。 ○旅籠油屋に関する管理・活用方針を決定し、宿泊を含めた歴史体験の拠点とする。 ○旅籠一松屋の解体のような、これ以上の重要な文化遺産の滅失を避けるため、未指定文化財の内容や重要性を周知する。 ○貴重な伊吉櫓の古木を守り、再び増やす活動に取り組む。 ○松崎宿本陣跡のような、詳細が不明な重要な構成要素の調査・研究を進める。 ○薩摩街道干潟野越堤を始めとする街道沿いの水利施設を、防災教育の材料として活用する。



松崎宿と薩摩街道区域の主な構成要素





松崎宿には、道を直角に曲げ、軍勢や馬が一気に通り抜けられないようにした枡形が、南北2か所に残されています（写真は北枡形）。



商家の多い宿場町松崎には、多くの恵比須像がまつられました。上町の恵比須は、文化3年(1806)の銘があります。



松崎の霊鷲寺には、享保の一揆（1728年）を鎮めた久留米藩家老稲次因幡正誠の墓と一字一石塔などが、大切にまつられています。



古飯の高松家には、幕末から明治に活躍した旧幕将古屋佐久左衛門と将軍徳川慶喜の奥詰医師高松凌雲兄弟の生誕記念碑があります。



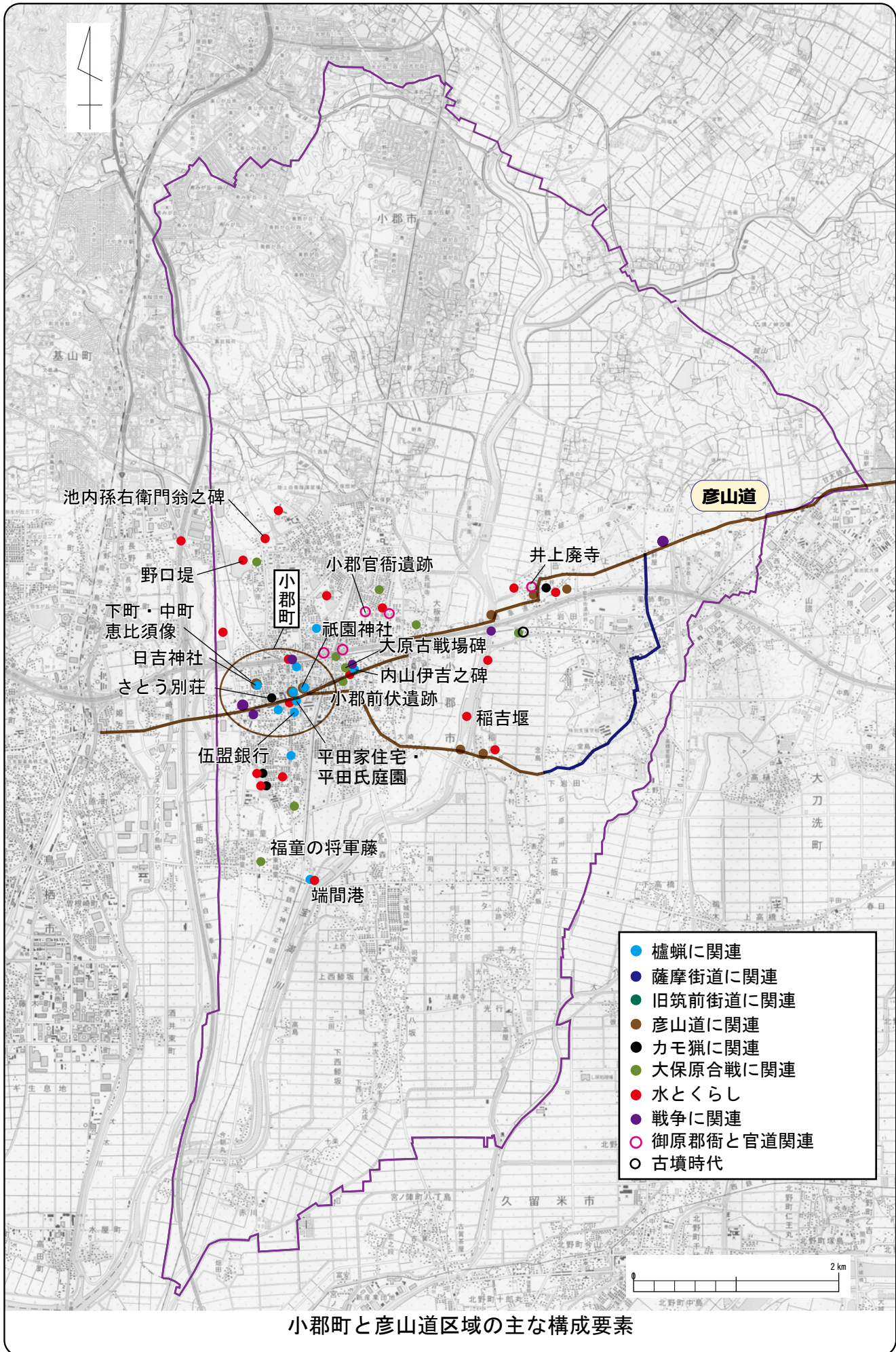
毎年10月17日に行われる乙隈早馬祭は、五穀豊穰・家内安全を祈るまつりで、子どもたちが早馬をかついで乙隈を一周します。



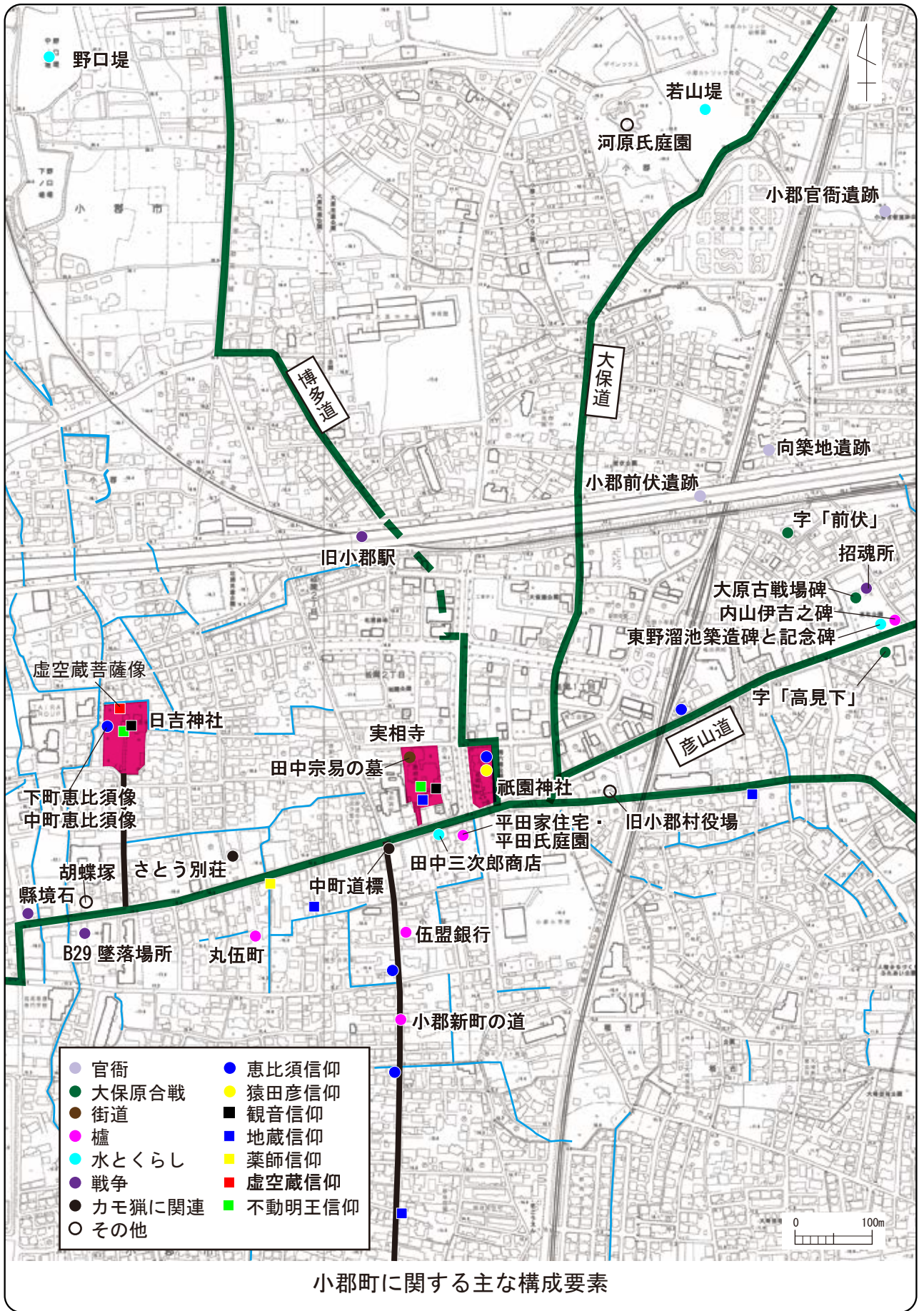
江戸時代、草場川の氾濫に悩んだ久留米藩は、当時の最新治水技術（野越堤・霞堤・横堤）を用いて薩摩街道を洪水から守りました。

2) 小郡町と彦山道区域

区域のテーマ	近代小郡の発展を支えた櫓蠟と町家群
区域のタイプ	テーマは複数に及ぶが、地域として文化遺産群の存在が重なる区域
関連文化財群と構成要素	<p> 地方郡衙の教科書 小郡官衙遺跡群 小郡官衙遺跡、井上廃寺 九州南北朝最大の合戦 大保原合戦 大原古戦場碑、福童の將軍藤 水とくらし 池内孫右衛門翁之碑、野口堤、稲吉堰、端間港 近世のクロスロード 小郡 平田家住宅・平田氏庭園、祇園神社、日吉神社 櫓と小郡 平田家住宅・平田氏庭園、伍盟銀行、内山伊吉之碑、河原氏庭園 小郡の食文化 鴨料理 さとう別荘 民間信仰 さまざまな祈りのかたち 日吉神社 下町・中町恵比須像 大刀洗飛行場と戦時のくらし 縣境石 </p>
区域の概要	<p> 本区域の中心となる小郡町は、市の中央部、宝満川右岸の低台地上に位置する。彦山道は市中部を横断し、柿の木瀬で宝満川を渡る。 古代には、小郡官衙遺跡と井上廃寺が存在する。小郡官衙遺跡は古代の御原郡衙で、郡衙の教科書と呼ばれる遺跡である。 1359年には大保原合戦の戦場となり、合戦後に懐良親王が奉納したと伝わる「福童の將軍藤」や、明治に建てられた記念碑「大原古戦場碑」がある。また、字名の「前伏」や「高見下」など、この合戦を想起させる地名も残っている。 近世の小郡町は、彦山道沿いの在郷町として大きく発展した。17世紀中頃の町立てにより寺社等を含めた計画的な区画が整備され、現在も平田家住宅を始めとした町家が残されている。なお、近世の小郡は櫓蠟により大きく潤った。18世紀前半に内山伊吉が櫓の優良品種「伊吉櫓」を開発し、技術等は藩の内外へと広まった。その栄華は平田家住宅・平田氏庭園に見ることができる。また、他にも河原氏庭園など、庭師松尾仙六による池泉式庭園が見られる。 この平田家は、現在認定 NPO 法人により管理され、建物の修復や様々な活用事業が行われている。 </p>
保存・活用の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○近世の小郡町及び彦山道に関する文化遺産と周辺環境の維持に取り組むとともに、活用のための周遊コースを設定する。 ○平田家住宅を管理する認定 NPO 法人文化財保存工学研究室との協力を強化し、日常的な事業展開を推進する。 ○平田家住宅に関する管理・活用方針を策定し、宿泊を含めた歴史体験の拠点とする。 ○現在まちづくり協議会が進める案内ボランティア育成活動に協力し、各文化遺産の周知を進める。 ○古くから残された町家など重要な文化遺産の滅失を避けるため、未指定文化財の調査・研究を進め、その内容や重要性を周知する。 ○近世以外の構成要素については、他地域との連携を進める中で活用の方法を検討する。



小郡町と彦山道区域の主な構成要素





小郡町は17世紀中頃に本格的に町立てが始まり、徐々に整備されました。江戸後期から明治には、蠶繭産業で大きく栄えました。



1353年に久留米市府中から勧請された祇園神社は、小郡の町立ての際に町の鬼門の守りとして現在地に遷宮されました。



小郡の日吉神社には、恵比須像が2体まつられています。向かって右が下町の恵比須、左が線刻で表現された中町の恵比須です。



台地上にある小郡町は、古くから水の確保に苦勞し、江戸時代は交渉により対馬藩田代領を流れる秋光川から水路を引いていました。



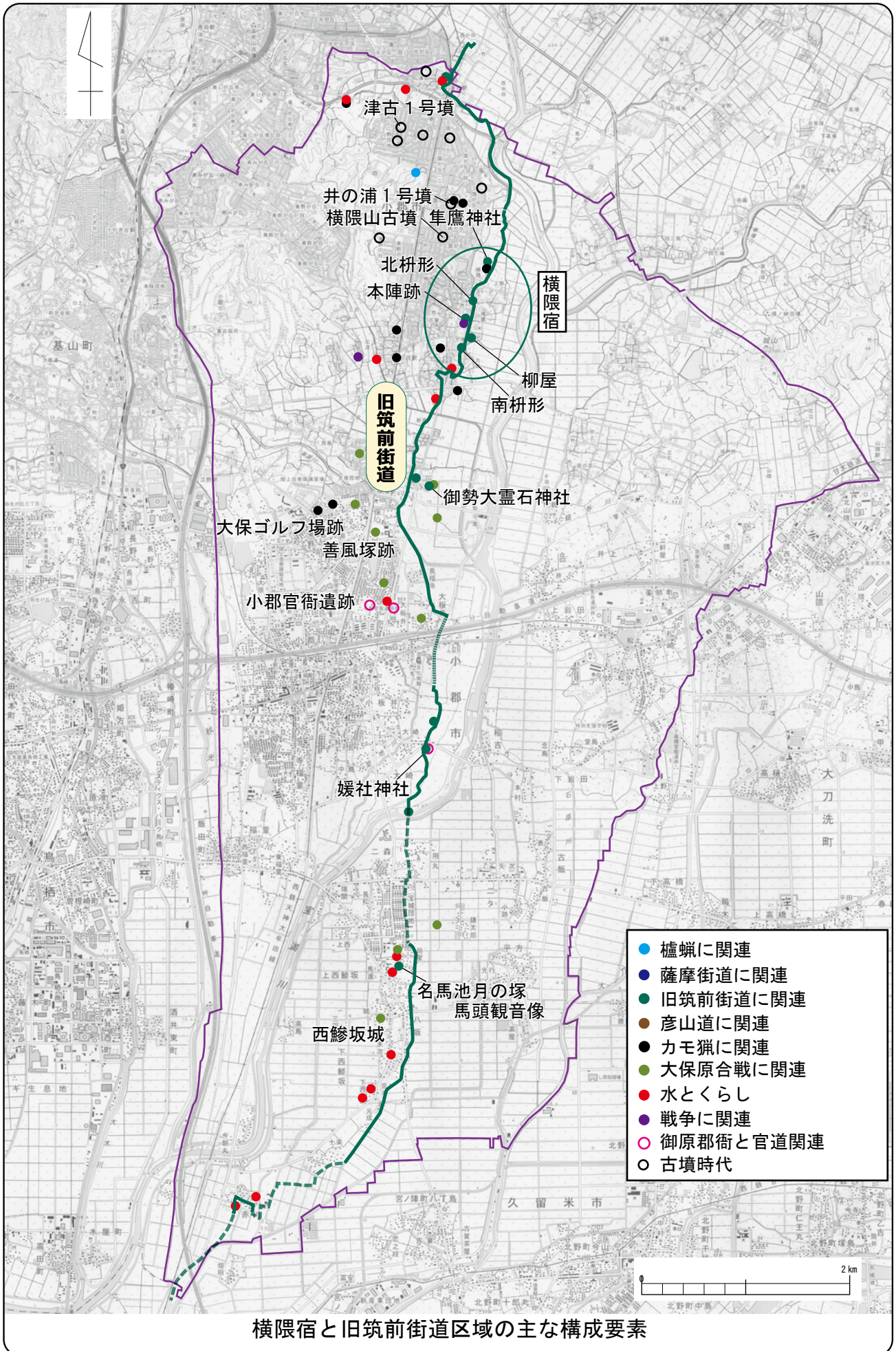
小郡自衛隊入口交差点にある道標で、小郡村青年団が建てました。矢印とともに「大原古戦場」や「飛行場」の文字が彫られています。



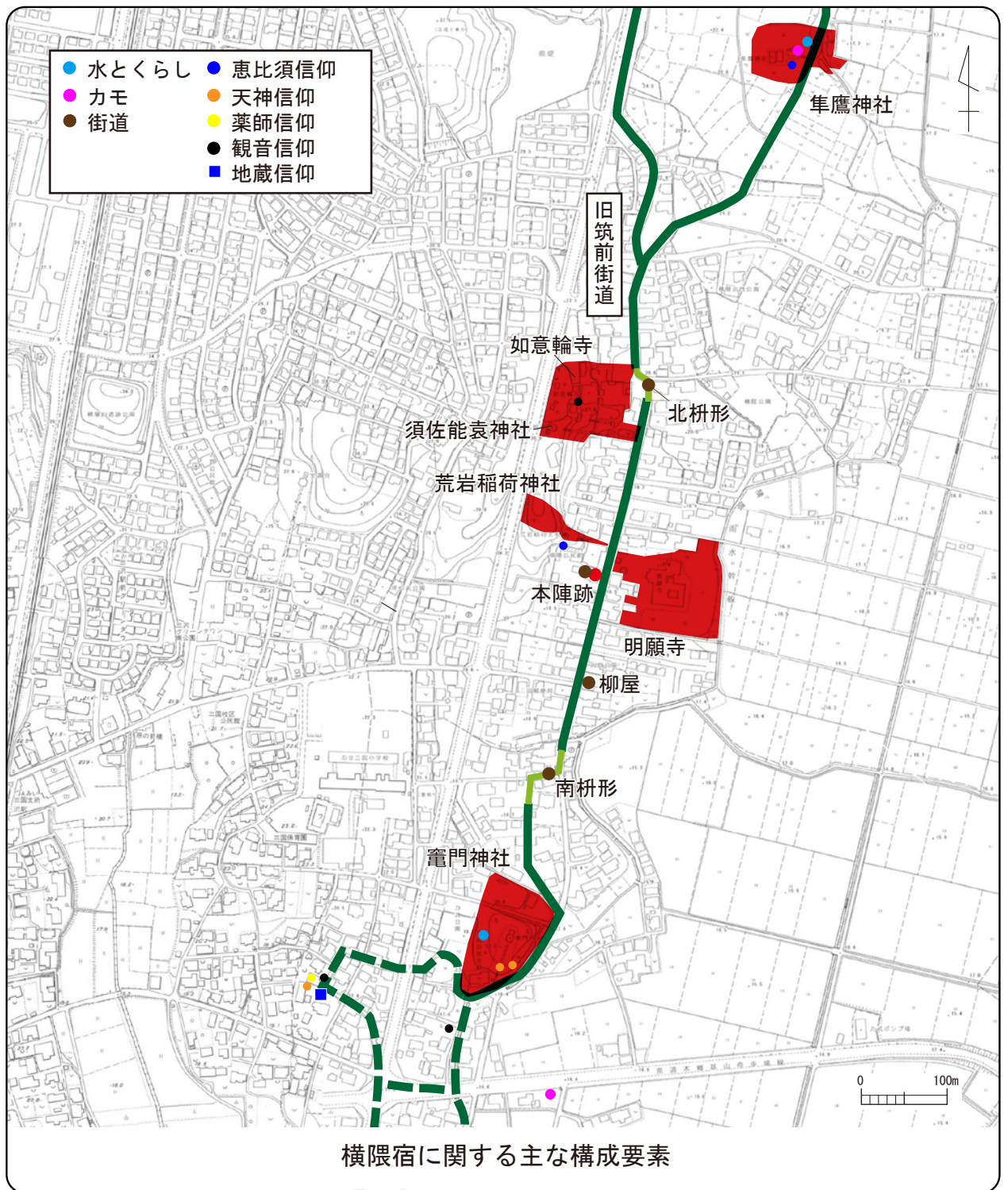
福岡県と佐賀県の縣界標で、元々は今より西の県境にありました。大正8年(1919)の大刀洗飛行場完成との関連が考えられます。

3) 横隈宿と旧筑前街道区域

区域のテーマ	中世から続く古道と人々の生活・信仰
区域のタイプ	一定のテーマの文化遺産が集中して残り、十分な活用を図ることが期待される区域
関連文化財群と構成要素	<p>津古古墳群と小郡の古墳文化 津古1号墳、横隈山古墳、井の浦1号墳</p> <p>地方郡衙の教科書 小郡官衙遺跡群 媛社（七夕）神社</p> <p>九州南北朝最大の合戦 大保原合戦 善風塚跡、西鯨坂城</p> <p>水とくらし ダブリュウ</p> <p>近世のクロスロード 小郡 隼鷹神社、柳屋、早馬祭</p> <p>小郡の食文化 鴨料理 大保ゴルフ場跡</p> <p>民間信仰 ささまざまな祈りのかたち 名馬池月の塚 馬頭観音像</p>
区域の概要	<p>本区域は宝満川の右岸に位置し、横隈は脊振山系から東に延びた丘陵の先端部に当たる。旧筑前街道は宝満川右岸を南北に走る。</p> <p>本区域に隣接する津古古墳群は、古墳時代初頭の首長墓系列として全国的な注目を集める。みくにの団地にある津古1号墳は、古墳時代中期の横隈山古墳とともに、保存された貴重な前方後円墳である。</p> <p>旧筑前街道とは、天下道が薩摩街道に定められる前の筑前に向かう道であり、大保原合戦に関連する塚や寺の伝承もあり、少なくとも中世から続くと考えられる。この道沿いに宿場町として発展したのが横隈町である。近代以降の建築がほとんどを占めるが、南北の桁形や宿場内の幅広い直線道路が当時の繁栄を物語る。</p> <p>江戸時代に始まったとされる横隈早馬祭は、隼鷹神社の例祭の行事で、無病息災と五穀豊穡を祈願する。地域の重要な祭として位置付けられており、近年も多くの若い男性が参加する活発な祭である。なお、街道沿いにはダブリュウも多く見られ、近世以降の信仰のようすを知ることができる。</p> <p>横隈宿に存在する如意輪寺には、平安時代作の如意輪観音立像がある。現在は住職の講話が人気で、市外から大型バスで多くの観光客が訪れる人気スポットである。</p>
保存・活用の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○中・近世の横隈町及び旧筑前街道に関する文化遺産と周辺環境の維持に取り組むとともに、活用のための周遊コースを設定する。 ○横隈宿の地元である横隈区と協議を進め、宿場内に残る多種多様な文化遺産の保存・活用方針を決定する。 ○地元に文化遺産の保存・活用に携わる団体を設立し、行政とともに方針に沿った事業を展開する。同時に案内ボランティアを育成し、周知を進める。 ○現在に残された貴重な町家など重要な文化遺産のこれ以上の滅失を避けるため、未指定文化財の内容や重要性を周知する。 ○町の構造など、詳細が不明な重要な構成要素の調査・研究を進める。



横隈宿と旧筑前街道区域の主な構成要素



横隈宿に関する主な構成要素



御勢大霊石神社は、平安時代の「延喜式」に記載された式内社です。神功皇后の伝承も残り、新年には粥占いが行われます。



横隈宿は南北約 770 m に渡る範囲で、幅約 5.3 m の広い道の両側に町家が並んでいました。現在も宿場を囲む竹林などが残っています。



みくにの団地に残る津古 1 号墳は、古墳時代前期の前方後円墳です。鶏形土製品が有名な津古生掛古墳とともに、地域の首長の墓です。



大正 15 年 (1926)、大保に福岡県最初の「大保ゴルフ場」が完成しました。現在もクラブハウスの跡がわずかに残されています。



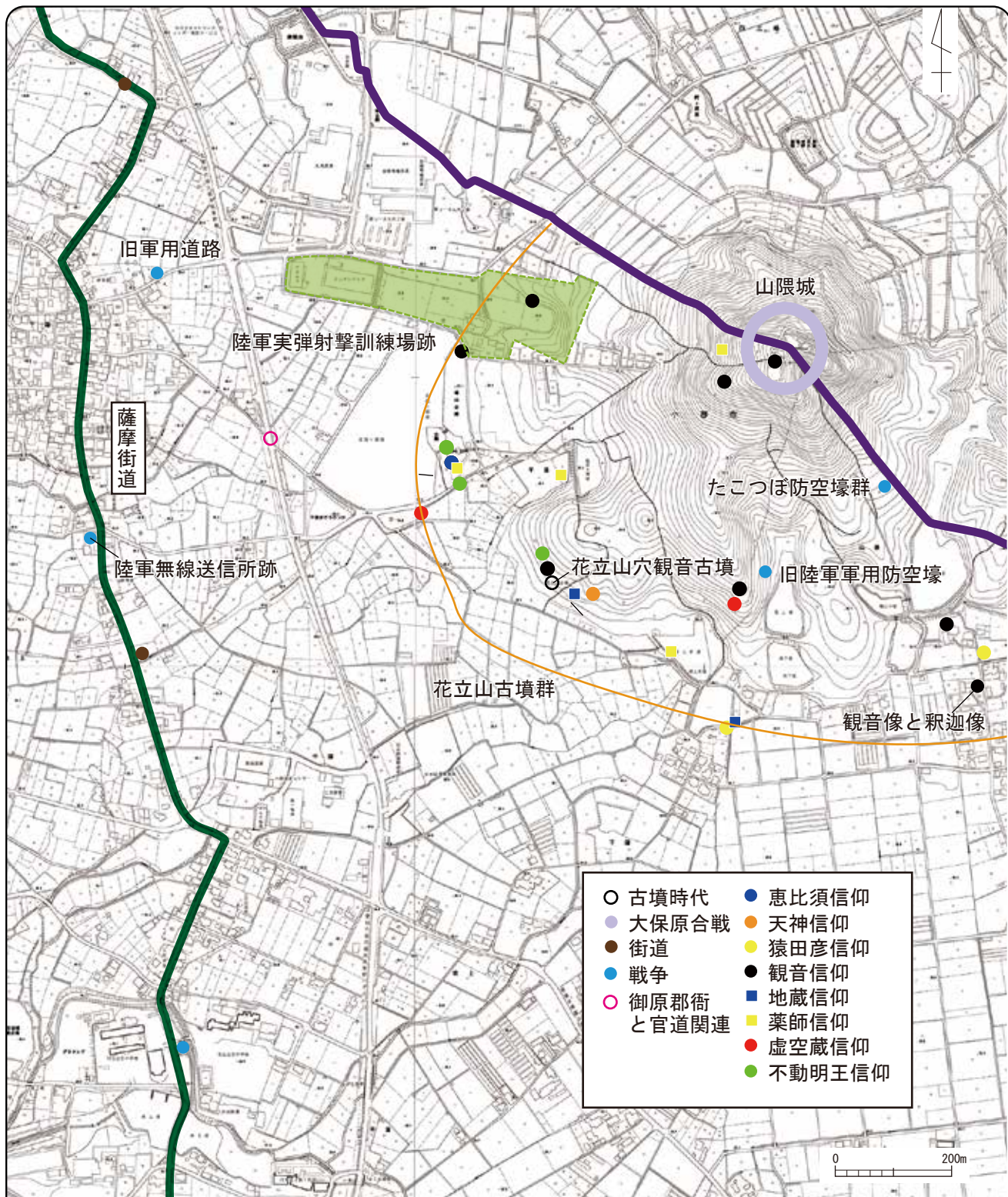
味坂には、源平合戦で活躍した佐々木高綱の伝承が残り、源頼朝からもらい受けた彼の愛馬である「名馬池月の塚」がまつられています。



嘉永 2 年 (1849) 年に生まれた田中新吾は、政治家として筑後川の改修に取り組むとともに、米の新品種「三井神力」を開発しました。

4) 花立山山麓区域

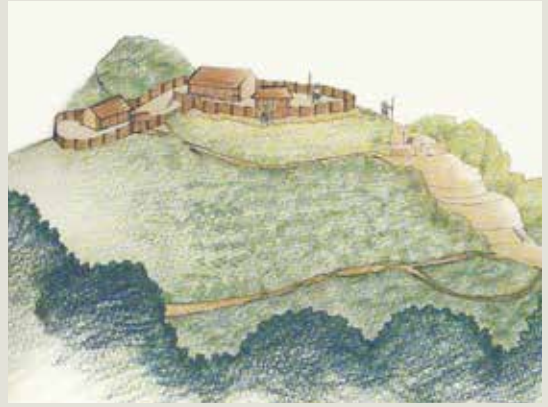
区域のテーマ	小郡のシンボル花立山の自然と文化
区域のタイプ	市の特徴である自然を背景に、様々な文化遺産が溶け込む区域
関連文化財群と構成要素	<p>津古古墳群と小郡の古墳文化 花立山穴観音古墳、花立山古墳群</p> <p>九州南北朝最大の合戦 大保原合戦 山隈城</p> <p>大刀洗飛行場と戦時のくらし 陸軍実弾射撃訓練場、軍用道路、軍用防空壕、観音像と釈迦像</p>
区域の概要	<p>花立山は小郡市内唯一の山で、標高は 130.6 m を測る。北東部約 1/2 は筑前町に含まれ、平野の中のランドマークになっている。</p> <p>山麓では旧石器時代の石器が見つかっており、数万年前から人々の活動が確認されている。また、縄文時代の落とし穴が数百基確認され、当時の狩猟の方法が確認できた。</p> <p>花立山には、南麓を中心に 300 基以上の古墳が築かれている。その中心になるのが花立山穴観音古墳で、全長 33 m を測る前方後円墳である。巨石を利用した石室の壁面には計 8 か所の線刻があり、貴重な装飾古墳である。なお、数百基の古墳のうちほとんどが石室の石が残されていない。これは、江戸時代以降に持ち出され、周辺の溜池を始めとした土木工事に利用されたからである。1647 年に宝満川に築かれた稲吉堰にもこの古墳の石が使用され、薩摩街道を守る干潟野越堤にも古墳の石が再利用されている。</p> <p>大正 8 年 (1919) に大刀洗飛行場が完成すると、小郡市内でも特に立石校区に多くの関連施設が築かれた。中でも花立山山麓にある陸軍実弾射撃訓練場は長さ約 300 m を測る大規模なもので、現在も一級の戦争遺跡として現地に残されている。</p>
保存・活用の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○花立山山麓は都市計画開発できないため、適切な環境維持に取り組むとともに、史跡と自然のバランスの取れた周遊コースを設定する。 ○花立山を楽しむ会と連携を進め、山麓に残る多種多様な文化遺産の保存・活用方針を決定する。 ○方針に沿った事業を展開するため、多種多様な文化遺産に対応する案内ボランティアを育成する。 ○山麓の史跡を市民の貴重な財産として明確に位置付けるため、花立山古墳群の国史跡指定を目指し、行政と地域が協力して準備を進める。 ○風化が進む戦争遺跡の保存に取り組み、平和学習やフィールドワークの教材として活用する。 ○古墳群の構成や展開など、詳細が不明な重要な構成要素の調査・研究を進める。



花立山山麓区域の主な構成要素



小郡市の象徴である花立山は、季節によってさまざまな表情を見せます。秋の稲穂を抱えた姿は、市の発展を象徴するようです。



花立山の山頂には、中世から近世にかけて地域の拠点だった山隈城がありました。現在も本丸などの曲輪が確認できます。



花立山では、「花立山を守る会」が活発な活動を行っています。春のお茶会や秋の収穫祭には、市内外から多くの人を訪れます。



花立山の山麓には、県史跡花立山穴観音古墳以外にも300基以上の古墳や横穴墓があります。県内最大規模の古墳群です。



昭和18年(1943)、花立山西麓に陸軍の実弾射撃訓練場が完成しました。現在も土塁などが残り、戦争遺跡として注目されています。



薩摩街道と射撃訓練場は幅8mの軍用道路で結ばれていました。現在も「陸軍」の銘がある境界標が残されています。